



健康社会学研究会

# ニューズレター No.52

発行:健康社会学研究会 [ホームページ] <http://www.fureai.or.jp/ribbon/healpro/>  
事務局:〒504-8504 岐阜県各務原市那加桐野町2丁目43 東海学院大学短期大学部 森川研究室内  
FAX:058-383-5455 E-mail:healpro@tokaigakuin-u.ac.jp  
ニューズレターNo.52/2008年6月 編集担当:臺有桂

## 7月 月例会のご案内

### 養護教諭からみた性教育の実態と その課題についての調査研究

発表者 伊藤 常久氏(東北生活文化大学短期大学部 講師)

高校の養護教諭を対象に性に関する保健室での問題や性教育に対するスタンスなどについてアンケート調査を行い、その結果について報告します。

日時 : 平成20年7月26日(土)15時~17時

場所 : 日本子ども家庭総合研究所3階 会議室

参加費 : 会員・無料、非会員・1000円

\*多くの方々の参加をお待ちしております。月例会終了17時30分から広尾周辺で懇親会を開催しますので、こちらも是非ご参加ください。

## 第41回 健康社会学セミナー 開催報告

『分権時代のこれからの保健活動 ~ヘルスプロモーションを推進するために~』

去る5月24日、『分権時代のこれからの保健活動』をテーマに第41回健康社会学セミナーが開催されました。参加者は、保健医療福祉を中心とする大学・研究機関の研究者、行政の保健医療専門職、学生など約25名でした。

基調講演として、三重県立看護大学の佐甲隆教授が、「新しい保健活動のフレーム」と「医療制度改革のキーワード」を示した上で、もう一度、ヘルスプロモーションの本質を見直すともいえる講演を行いました。

まず、佐甲教授は、『ヘルスプロモーションにおける、成人へのライフスキルエンパワメントの重要性』というテーマを掲げ、様々なライフスキルのキーワードについて具体的な解説

を行いました。例えば、「セルフエスティームとは、自尊・自己肯定感であり自分自身に価値があるという肯定的な感覚、自尊心や自己受容感である。自分をおもひのままに認め、自分を大切に思える、自分はOKだと思える感覚なのである」というように。そして、「これらのキーワードの本質的な考え方を理解し、自分の言葉で説明できてこそ、エンパワメント的に活動を展開していける」と述べました。

また、コミュニケーションについて、それは「こころの整理ツールである」と述べて解説されました。葛藤状態は、無意識の領域で、言語化、身体化、行動化して現れます。もやもやとした心は頼っておくと崩壊し健康は損なわれていきますが、言葉にすることができれば心が整理され健康を維持できます。そのためにこそ、コミュニケーションが必要なのだという考え方はです。そして、コミュニケーションの中でも、「ヘルスコミュニケーション」を別のキーワードとして示し、佐甲教授オリジナルの「満たし型ヘルスコミュニケーション」を解説しました。キーワードは情・知・力・意の4つ、こころを満たす“情”、あたまを満たす“知”、おなかをみたく“力”、たましいをみたく“意”です。満たし型ヘルスコミュニケーションは、人が集い、語り合い、満たし合い、ライフスキルを向上させ、ビジョンへのアクションをおこすために必要とされました。教授は、「エンパワメントされれば、成人や高齢者は、互いにコミュニケーションし自らの想いを語り、元気になるチャンスやスキルや教育の機会を利用し、自らの生活をきちんと整え、自分らしい健康的な姿を学びとることができる」と述べました。

つぎに、『住民参加で行う政策マネジメント』というテーマを掲げ、保健活動政策形成マネジメントと政策形成のプロセスを以下のように解説しました。保健活動のマネジメントとは、健康への方向性とビジョンを定め、実現の手段と方略を描くプランニングと評価を重視し、ビジョンの実現に必要なすべてを行っていくプロセスです。政策形成プロセスとは、ビジョンの作成、問題の認識、背景動向の理解、戦略の策定、政策立案・選定・決定、プレゼンテーション、合意形成、実施・モニタリング・評価といえます。したがって、マネージャーに必要なスキルとして、保健活動やりくり力(情報・活動マネジメントスキル)、見通し力・段取り力(疫学統計、計画策定評価スキル)、魅せる力(プレゼンテーションスキル)、おはなし力(コミュニケーションスキル)、お世話力・かまい力(アドボカシースキル、政策形成能力)、生き生き力・自分力が和く湧く力(エンパワメントスキル)、まきこみ力(ネットワーキングスキル)、育ち力(キャリアアップスキル)と言った8つのスキルを説明しました。また、政策実現に必要なナレッジとして、「学問的ナレッジ」「対話的ナレッジ」「政策的ナレッジ」の3点を示し、学問的、政治的ナレッジも大切であるが、協働・住民とのコミュニケーション、つまり対話的ナレッジマネジメントが欠かせないと述べました。

政策形成には、もちろんエビデンスは必要である。しかし、エビデンスだけがすべてではない。エビデンスのある政策形成が必要だと言われているからこそ、エビデンスの持つ意味と向かい合うことが必要なものであり、現場で感じる「感覚」に敏感になり、その感覚を大切にすることで、エビデンスを創造していく必要があるのだという言葉が印象的でした。

基調講演のあとは、4つのグループに分かれ、ディスカッションが行われました。

会場からは、「ヘルスコミュニケーションスキルの部分に共感した」という感想があがり、

関連して、「相手にどういうときに伝わるのだろうか、教科書通りでは伝わらない、伝える側に発見があったときに伝わるのではないだろうか、共感があったときに伝わるのではないだろうか、伝える側の自己開示が必要なのではないか、知識なども大切であるが伝える側も感情の動きがあると相手の心に伝わるのではないか」といった内容のディスカッションが展開されました。

さらに、「現場で感じる“感覚”に敏感になり、「いい感じ」といった“感覚”を大切にすること」についてもグループディスカッションの視点となりました。そして、これから現場を担う者には、専門職としての“哲学”が求められるのではないだろうかといった声が上がりました。

質疑応答では、ヘルスプロモーションの概念は欧米的であり、例えば、セルフエスティームとか、アサーションなどは、「遠慮」とか「謙遜」と言った言葉をもつ日本人の文化とはなじみにくい部分があるのでは？という質問に対し、佐甲教授は以下のように答えました。

日本人は主張しないし、それが良いことと言われている部分があることは確かです。しかし、例えばアサーションについて徹底的に考えぬく、自分の言葉にできるまで考えぬくことはできるでしょう。ものごとを自分の言葉、方言があるなら方言で語れたら、方言で説明できたら、自分のものになったということなのかもしれません。徹底的に考え抜き、自分の文化のレベルに落とし込んでいくことで、日本的な感覚と外国的な概念は、少しずつ繋がっていくのではないのでしょうか。WHO は、ヘルスプロモーションを世界各国共通の標準的なものだと言っているのではないのです。それぞれの文化を重んじた上で、「参考文献」として捉えて行けばいいのではないのでしょうか。

地方分権と新しい保健活動のフレーム、地域を取り巻く政策環境の変化はめまぐるしい。しかし、だからこそ、ヘルスプロモーションの本質を見直し、地域を見つめなおすことで、よりよい保健活動を展開していくことが出来るのではないかと思えるセミナーでした。

(文責:渡辺多恵子)



## 平成 20 年度健康社会学研究会総会 開催報告

さる5月24日(土)に、平成20年度健康社会学研究会総会が開催しました。5議案について審議した結果、全て承認されましたのでご報告いたします。

### 新運営委員・監事の紹介

さる5月10日の運営委員会において、会則第7条に基づき、新運営委員ならびに監事の選出を行いました。任期は、平成20～22年度となります。

新運営委員ならびに監事は次の通りです。どうぞよろしくお願いいたします。

代 表：松岡 正純(白井市役所健康課)

微力ながら引き続き代表を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。新体制は、経験豊かな諸先輩と、これから社会の一翼を担う若手・中堅の絶妙なバランス構成となりました。研究会はオリジナルカラーをもった人々の集まりです。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

副代表：杉田 秀二郎(文化女子大学文学部 准教授)

引き続き、運営委員および副代表を務めさせていただくことになりました。他の委員とはまた違った観点から会に貢献できればと思っております。この研究会が、会員の方々の研究・実践に役立つことを願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

副代表：臺 有桂(横浜市立大学医学部 准教授)

新たに副代表として務めさせていただきます。研究会が、人と人をつなぎ、学び合い、会員の方々の活力をチャージする場となるように尽力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：森川 洋(東海学院大学短期大学部 講師)

引き続きよろしくお願いいたします。岐阜に来て三年目になります。事務局から夕日に照らされる山なみを眺めると「うわ～、きれいなあ～」と思わず声に出してしまいます。ぜひ一度お立ち寄りください。

運営委員：小山 修(日本子ども家庭総合研究所 研究企画・情報部長)

また運営委員になりましたが、私は家主として立場から参加しています。研究会は、若手の委員が中心になり、この1、2年のセミナー、月例会の企画、内容ともに充実しています。これは運営委員の実力を示すものです。会員の皆さん、是非参加してみてください。

**運営委員: 齊藤 恭平 (東洋大学ライフデザイン学部 教授)**

研究会とも二十五年以上の関わりになります。関東を離れてからは会費納入だけの幽霊会員として、遠くから若手の頑張りをまぶしく感じていました。昨年から関東に戻り、まだ浦島太郎状態ですが、運営委員の大役をいただいて身が引き締まる思いです。研究会のイズムを絶やさないように、微力ですが頑張ります。

**運営委員: 齊藤 進 (日本子ども家庭総合研究所 主任研究員)**

運営委員に再選された齊藤@子ども総研です。研究会の運営は、若手のメンバーが頑張っており、積極的に月例会、セミナーを開催しています。私は、微力ですが、若手メンバーを支援して研究会をより活発にしていければと考えています。よろしくをお願いします。(^^)/

**運営委員: 白子 純子 (日本子ども家庭総合研究所 嘱託研究員)**

生活環境ががらりと変わり、地域サービスや医療の受け手になったことで、日々発見することが多く、毎日が新鮮です。こんな日々の出来事を研究会に役立てて行けたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

**運営委員: 鈴木 茜 (市原市保健センター 保健師)**

千葉県の自治体での保健師活動は9年目を迎え、主に母子保健を中心に、予防活動に取り組んでいます。健康社会学研究会では、様々な職種・分野の方々と交流するなかで大変実りある学びを得ることができ嬉しく思います。今後も、微力ではありますが、研究会をさらに盛り上げ、交流の輪が広がっていきけるよう、頑張っていきたいと思ひます。

**運営委員: 森田 健太郎 (医療法人内田歯科医院 副院長)**

埼玉県春日部市にて歯科医師をしております。私の歯科医院では、"充実人生支援拠点"をコンセプトにヘルスプロモーションの一端を担えるような活動をしていきたいと考えております。研究会に関わる皆様からいろいろと学ばせていただきたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

**運営委員: 渡辺 多恵子 (筑波大学大学院)**

健康社会学研究会のみなさんからは、新しい視点や気づき、そして何よりも、目標に向かって進んでいくためのエネルギーをもらっています。もらうばかりじゃなく、私も少しでも研究会のお役にたてるように頑張りたいと思ひます。

**監事**

**田中 久子 (女子栄養大学 教授)**

**林 二土 (NPO 法人ダンデライオン)**



## < 報告 > 第 17 回 日本健康教育学会への協力

さる6月21日(土)、22日(日)に、日本子ども家庭総合研究所にて『第17回 日本健康教育学会』が開催されました。

当研究会では、研究会運営ノウハウの蓄積や運営委員のレベルアップを図るため、運営委員が中心となり、当日の学会運営スタッフとして積極的に参画いたしました。

## 事務局からのお知らせ

### 1. 20年度年会費の納入について

毎年度、会費納入につきましてご協力いただき大変ありがとうございます。

20年度年会費の納入をどうぞよろしくお願いいたします。

#### 会費納入先

郵便振替：00100 - 8 - 41025

銀行口座：

みずほ銀行 広尾支店 普通 1842122

健康社会学研究会 代表 松岡正純

十六銀行 日野支店 普通 1238746

健康社会学研究会 代表 松岡正純

### 2. 事務局メールアドレスの変更

事務局の校名変更に伴い、メールアドレスが変更になります。

ただし、平成20年度中は、新旧アドレスともに有効です。

新) [healpro@tokaigakuin-u.ac.jp](mailto:healpro@tokaigakuin-u.ac.jp) ← 旧) [healpro@tokai-wjc.ac.jp](mailto:healpro@tokai-wjc.ac.jp)

### 3. 所属・住所変更等について

会員の皆様で、人事異動、転居等により、所属・住所変更等された場合は、お手数ですが事務局までご一報ください。



#### 4. 平成20年度年間事業計画

多くの会員の方々の参加をお待ちしております。詳細はニュースレター等にて改めて通知いたします。また、ホームページにも掲載しますので、ご確認ください。

日時	予定
7月26日(土)	【月例会】 詳細は表紙参照
9月20日(土)	【月例会】学会発表リハーサル * 発表者を只今募集中!
11月5~6日	【自由集会】 * 日程はいずれか未定。
12月6日(土)	【セミナー】
2月7日(土)	【月例会】

## 9 月月例会 発表者の募集

来る9月20日(土)の月例会は、『学会発表リハーサル』を行います。近々学会発表を予定しているが、「事前に内容やスライドへの意見が欲しい」、「リハーサルをして度胸をつけたい」などなど、会員の皆様と一緒に月例会を作り上げていきたいと思えます。

発表時間や形態は、発表学会に則して設定をさせていただきます。発表者に限らず、コメントをして下さる参加者も大歓迎です。

### 発表者 申込方法

#### 1. 申し込み先:事務局

メールまたは郵送で、「お名前」「連絡先」「発表予定学会名」「発表形式(口演、示説)」「発表時間(発表と質疑応答の時間)」を記載の上、お申し込み下さい。

#### 2. 申込期限:8月末日

#### 3. その他:

配布資料および使用機材については、申し込み後に確認をいたします。

月例会のアイデア、ニュースレターへの投稿など、会員の皆様の参加大歓迎です!